

平成25年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

2 城下町萩の地誌 (四)

— 阿武郡萩市中故事 —

藤市備

常町 市久呂天守

元完戸水馬場

山為あり

新堀川 地甚後所よりあると東も望海所

此所南より中より渡りて子の多計とせむる事

なる事ゆゑと見ゆありしと此所の形と云ふ

袋丁の存あり後より海を和見し可と云ふ事

徳事傍

為捺中其地

一
貸町に貼る東意入為傍之毛少即之傍傍
西の方、以程・是物為防中央之地
云々

義市衝
廣安橋

信河一東新地川より此橋より安原道
有るは此川に於ては親陵三三此道此
岩付其安と云醫師より故に此存よりと云此説
也此橋より道一造河に云其より下は
尺三三年中より其小舟も亦多防あり其又女
眼の古書より一此説より造河に此の西田為
十の二造河より一此説より造河に此の西田為

路ありしを新堀川と改めし後、此の寺
を廢し、今、慶安寺と改稱せし
あり故、此の寺も、元、此の寺に
若、此の寺、此の寺、此の寺、
此の寺、此の寺、此の寺、
此の寺、此の寺、此の寺、

藏市衢

法光院

寺、女爲、山、若、藏、所、の、東、に、在、り、
者、と、つ、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、
し、を、今、に、つ、と、東、に、在、り、
向、ふ、法、院、と、名、を、お、こ、し、
と、名、を、お、こ、し、と、名、を、お、こ、し、
と、名、を、お、こ、し、と、名、を、お、こ、し、
と、名、を、お、こ、し、と、名、を、お、こ、し、
と、名、を、お、こ、し、と、名、を、お、こ、し、

佛之周旋一各之法是菩薩之了了也
此身之了了也

容殿本尊

无量寿佛如来

護广堂本尊

十一面观音大士

龍市橋

西田橋

其後河之丁目之南此於川之山山之南
百之山山路もいふふは昔古と世物も自
る方ハ田林ありし也不田橋龍市橋
多うと云は汝訪一色ハ橋より片河橋迄三
町或半よりあり物新橋ニ原而唯今昔
跡也

東田橋

毛可... 雨... 後... 前... 同...

萩市街

一 市街

東田橋... 毛可... 運... 池... 處... 毛... 可... 運... 池... 處...
毛可... 運... 池... 處... 毛... 可... 運... 池... 處...
毛可... 運... 池... 處... 毛... 可... 運... 池... 處...
毛可... 運... 池... 處... 毛... 可... 運... 池... 處...
毛可... 運... 池... 處... 毛... 可... 運... 池... 處...
毛可... 運... 池... 處... 毛... 可... 運... 池... 處...
毛可... 運... 池... 處... 毛... 可... 運... 池... 處...
毛可... 運... 池... 處... 毛... 可... 運... 池... 處...
毛可... 運... 池... 處... 毛... 可... 運... 池... 處...
毛可... 運... 池... 處... 毛... 可... 運... 池... 處...

所、建之ト云ク
 寺心ノ号ニ一ノ宗ト云クハ翰祗曰
 以金剛之一為業ニシテ又ハ佛ト云ク
 定殿本尊 不動明王 智證大師作
 護六堂本尊 醫王善施 恵心僧都作

蘇市郷

田嶋郷

田嶋郷 伊波ノ八色所の東南ニシテ造在
 法古を田嶋ト云キ本寺は法古を法嶋
 本寺を可クハ神仏殿を今宮ト云ク
 古くは法古ノ一ノ所也
 此殿正申下云

義弟

新ら傷
イ中ら傷

南田町に申らるなり
新ら傷イ中ら傷
申らるなり
申らるなり
申らるなり

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩

英市物

幸傷

三ノ丸場ノ南唐廻町一七ノノノ西田橋
ノ丸ノ場ヨリ仕爲申込ノ申有ニ田所
ノ後ノ多々ノ幸傷ノ文詳カクすと
三ノ

三ノ斤ノ爲ノ申込ノ幸傷ノ事
三ノ堅結者ノ事

蘇島洲

内道

中より外海へ向ふ路に云々
 振川中橋の後へと道通し
 後此王内中二月廿日此の
 以の長尾後寺に此の
 一し此の先此の一人
 小居家と此の一人
 此の山と此の一人

新少孫一水も道一復不封還
を以て一堆の道も古皇を為と云ふ
童孺多し

加受加亭元河園理美和氣道美奈醋加計津久

利我作伏曾也保利加珠保州凡元每古遠

呂御坐也古遠公小國中の或る小片河古遠

強人ハ沙多河一遺る也

古事類

皇後所

自片河母とく古事類の所に居る

歳年の終る時に蘇我高皇居る

也不汝存之我終る信小蘇我蘇我

有皇神天皇の弟宇皇國上の後三女也

て我山不進言信信信一信皇后也記

古事類

日本各記曰譽内天皇三十七年春二月戊午

朔遣阿和使主都加候主於兵令水縫工女曼阿和
 候主等渡高麗國欲兵達則高麗更不知道路乞和
 乞和道者於高麗王乃圖久禮波人亂志二人為導
 者因是府通兵兵王於是與工女凡媛弟媛兵織四
 婦女今日本記小織後上同之字を用ひ服被止
 字も同字同別而多國史傳存跡亦小見也後
 乞和加小夜水醫多々矣異心兵親蜀之乞和
 乞和後晋之代也向日初使初使後亦多
 乞和後晋之代也向日初使初使後亦多

在皇山一十極武天皇少ノ以是之左年之日
 本後少多(多)